

研究報告

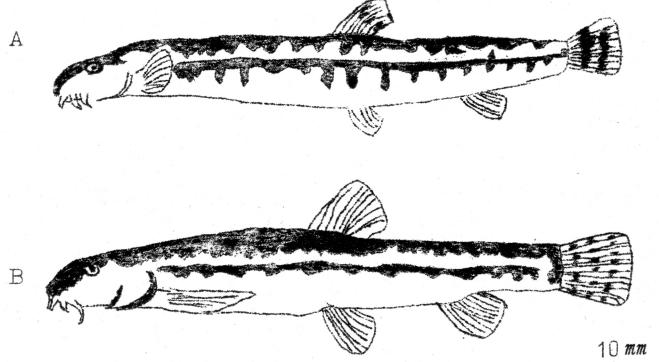
松岡でどれたアジメドジョウ Cobitis delicata NIWA. とイトヨ Gasterosteus aculeatus LINNÆUS.

福井県立武生高等学校 五十嵐 清

福井県下における淡水魚相については断片的な報告はあるが、まだ殆んど明かにされていない。筆者は1948年より現在に至るまで主として九頭龍川水系を調査研究して来たが、その資料中松岡で採集されたアジメドジョウ及びイトヨについて筆者の知りえた一、二の知見について報告したい。

本調査に多大の御協力と御援助を頂いた松岡町岩本岩蔵氏及び同町魚業組合の方々に深謝する
 アジメドジョウ Cobitis delicata NIWA. はシマドジョウ Cobitis biwae JORDAN et SNYDER に非常に類似している。1937年丹羽弥氏が独立の新種として公表するまでは専門学者の間においてすら独立の種として認められない程であつた。丹羽氏によつて
 アジメドジョウの分布が

明かにされたが、その報告によると「日本中部に於ける一部諸河川の上流
 ヤマメの棲む山地溪流乃至イワナの棲む山岳溪流にわたつて多数棲息する
 純溪流性のドジョウであつて生態学的に甚だ注目すべき存在であるが、又その味が頗る美味であるところから、これが産地においては殆んど例外なく珍重され地方の産業上からも相当重要視されているものである。」とあるが、その中の日本中部とは三重、愛知、岐阜、長野、富山、石川、福井



(A) アジメドジョウ

(B) シマドジョウ (武生市五分市町 1960)

の各县を流れる主要河川の最上流部に限られ他の地域からの報告、のないのも特異な分布と云はねばならない(1955年)。

本県の棲息地の今迄の報告では日野川上流(今庄)及び九頭龍川本流の最上流泉村大谷、同下山の報告がある(1955年)。筆者は1959年泉村池ヶ島で、1960年西谷村温見で採集したが、いづれも九頭龍川本流及び真名川の最上流部で、棲息地の点で丹羽氏の云う溪流域に合致する。温見の採集では溪流の小疊下に多数群棲していて驚いた程である。1916年の松岡での採集で予想だにしなかつたアジメドジョウが入手した。

松岡は九頭龍川の中流域に属し、イワナの棲息する溪流域とは程遠い。アラレガコ(カマキリ)ヨシノボリは棲息出来てもアジメドジョウの棲息に好条件とは思われない。松岡でアジメドジョウのとれたこととの意義が九頭龍川のアジメドジョウの分布が外の例を破つて最上流域だけに限定されずに中流域にまで及んでいると考えるのは早計と云わねばならない。松岡より上流域にある勝山付近ではこれまでに全く採集されていないからである。例え数匹にしても松岡で発見されたことは注目に値しよう。

イトヨ *Gasterosteus aculeatus acutatus LINNAEUS.*について。

トゲウオ科魚類はその種類も少く分布域も限定されていて貴重な淡水魚類と云はねばならない。本県では大野市本願清水の

イトヨと武生市五分市町の

Fig. 2

トミヨ *pungtius*

sinensis

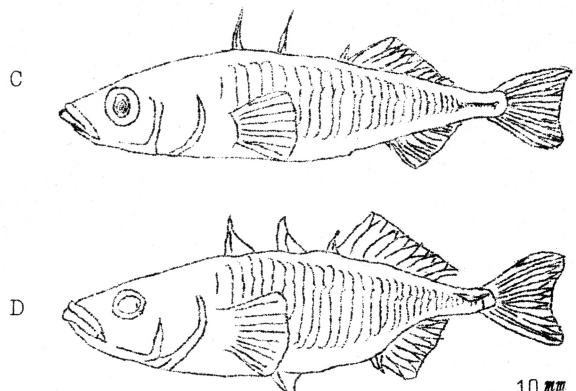
(GUICHENOT)はよく知
られている。大野産イトヨ
は陸封型の特異なものだけ
に天然記念物に指定されて
いるが、イトヨにはもう一
つの型に海産のものがある。
本県では海産のものが多数
北潟で採集されているが、
(大野高校)、その体長

68~97mmで陸封型の体
長38~66mmに比べて著
しく大きく約一倍半に相当
する(池田1933)。

鱗板の配列はいづれも

Trachurus 型で頭部

より尾柄末端部に至るまで



(C) イトヨ(海産型、北潟湖)

(D) イトヨ(陸封型、大野市)

大野高校より

(寄)

配列し、凡そ 30 の鱗板をもつている。九頭龍川の下流域からの報告はないが北潟での採集から九頭龍川下流域でも棲息していると推定出来る。しかし中流域である松岡での発見は全く驚異の外はない。岩本氏は数十年にわたる松岡附近での河川通であるがイトヨの発見は始めてであるとのことである。九頭龍川下流域での発見があつても当然と思われるが、中流域での発見はその棲息地が産卵のために下流域に遡河しそこにとどまる点からみて、採集標本が1個体であつても特筆すべきことであろう。最初は大野産の陸封型のイトヨが出水により流出したもののように思えたが、体長、体高、棘状等の諸点の特徴から明かに海産型のものであり、中流域の松岡まで遡河して来たことが推定される。

九頭龍川の最上流域に定棲すると思われる渓流性のアシメドジョウと下流域で遡河産卵すると思われるイトヨとが九頭龍川の中流域の松岡でとれたことはそれ等の個体数が僅少であつても生態的に興味深いことである。

参考文献

- 1) 丹羽 弥：アシメドジョウの地理的分布 日本生物地理学会会報 方16～19巻(1955)
- 2) —————：木曾谷の魚 木曾教育会(1959)
- 3) 松原喜代松：魚類の形態と検索、岩崎書店(1955)
- 4) 青柳 兵司：日本列島産淡水魚類総説、大修館(1957)
- 5) 岡田弥一郎、中村守純：日本の淡水魚類、大修館(1948)
- 6) 池田 嘉平：糸魚属の鱗板の変異と遺伝、遺伝誌、9(2)(1934)